

第6回連合奈良海外視察報告

視察日時：2013年5月25日（土）～28日（火）

視察国：カンボジア王国 シュムリアップ

参人数：20名



アンコールワット



タ・プロム



メアス・博子

連合奈良海外視察団は、5月25日、関西空港で出発式を行い、カンボジアに向け出発した。出発式では、古川団長より、国際貢献・国際連帯を深める貴重な経験の場として欲しいと挨拶を受け、団員全体で確認し、カンボジアに向け出発した。途中、ハノイ空港で、搭乗する予定の便が、欠航となり5時間も、乗り継ぎ便を、待ったが、無事、日本時間の23時過ぎに、シュムリアップのホテルに無事到着し1日目を修了した。2日目は、1992年に世界遺産に登録された貴重な遺跡である、アンコール遺跡の視察を行った、遺跡の修復には、日本の大学も参加している。気温38度という、真夏の気温に、参った。カンボジアでは、日中の気温が高いため、昼休みが2時間ぐらいあるらしい。最終日、日本人女性が代表を務める、スナーダイ・クマエ孤児院で、代表のメアス・博子さんと懇談を行い、連合奈良からの支援金も手渡した。孤児院の経緯などの説明を受けた後、孤児院の子どもたちから、日本語での自己紹介や、日本の歌などの披露も受けた。今回視察団のガイドの、ラブオも、スナーダイ・クマエ孤児院の出身者で、上手な日本語で案内してくれました。



スナーダイ・クマエ孤児院の子どもたち



マダム幸子アンコールクッキーオーナー

最後に、日本人起業家で、アンコールクッキーで、有名なマダム幸子さんと懇談を行った。幸子さんは、カンボジアの旅行会社で働いていた頃、観光客から食べるお土産は無いのかという、問い合わせが多かった事から、アンコールクッキーの夢を抱いた。カンボジアには、労働力はあるのに、仕事がなく貧困である。カンボジア産の材料をつかい、カンボジアで作る事により、雇用とお金が生まれることから、カンボジアにこだわって起業した。現在、カンボジア人女性を中心に、70名雇用しており、産休3ヶ月（有休）職場復帰後、1年間育児のための短時間労働制度も入っている。また、福利厚生とし、託児所も完備されている。働く女性を支援しているすばらしい起業家でした。